

一般廃棄物組成分析調査の概要

1 調査方法

ごみ排出時の袋の利用方法（外袋、内袋、ごみ）を把握するため、家庭から排出される「可燃ごみ」「不燃ごみ」の組成分析を実施する。

可燃ごみ調査：12市町15施設（うち、指定袋は5市町5施設）の平成21年8月及び平成22年2月の調査結果のデータである。主な内容は家庭から排出される生ごみである。

不燃ごみ調査：11市町14施設（うち、指定袋は2市2施設）の平成21年8月及び平成22年2月の調査結果のデータである。主な内容は空きペットボトル、空き缶、小型家電等である。

調査方法は、袋を「レジ袋」「市町有料指定袋」「その他の袋」の3種類に分け、その大きさ（大袋、小袋の2種類）・色（白色・透明色、その他の色の2種類）別に、それぞれの枚数を計数する。また、レジ袋の提供元（小売店等）を確認する。

レジ袋：店舗等において有償・無償で渡される袋。小売店等で渡される無印刷の袋（形状は取手付き袋）もレジ袋。その他の袋：「レジ袋」「市町有料指定袋」を除くその他の袋。

外袋：外気と接している袋で、内容物がある袋（内袋が入ってなくても、直接排出物を入れてある外袋も含む。）。

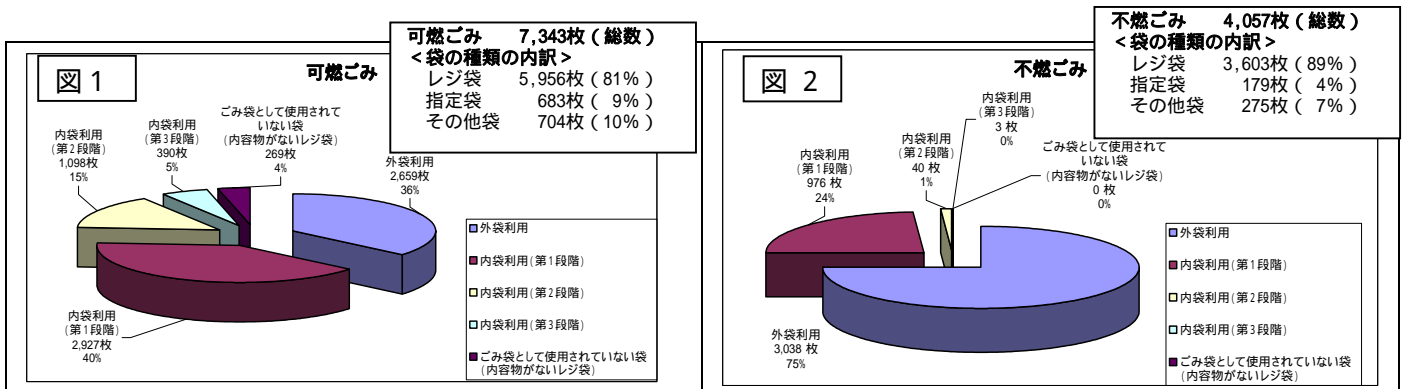
内袋：外袋の中の袋で内容物がある袋。内袋の中の内袋も同様。ごみ：内容物がないまま排出されている袋。

2 調査結果【平成21年8月実施】

(1) ごみ排出時の袋の種類・使われ方について

可燃ごみの排出時の袋の種類・使われ方は図1のとおりであった。袋の総数は7,343枚で、袋の種類としては、レジ袋が5,956枚で全体の81%を占めていた。外袋としての利用が2,659枚で全体の36%、内袋としての利用が第3段階まで含めると4,415枚で全体の60%を占めていた。ごみとしての排出が269枚で全体の4%であった。（図1）

不燃ごみの排出時の袋の種類・使われ方は図2のとおりであった。袋の総数は4,057枚で、袋の種類としては、レジ袋が3,603枚で全体の89%を占めていた。外袋としての利用が3,038枚(75%)、内袋としての利用が第2段階まで含めると1,016枚(25%)で、ごみとしての排出はなかった。（図2）



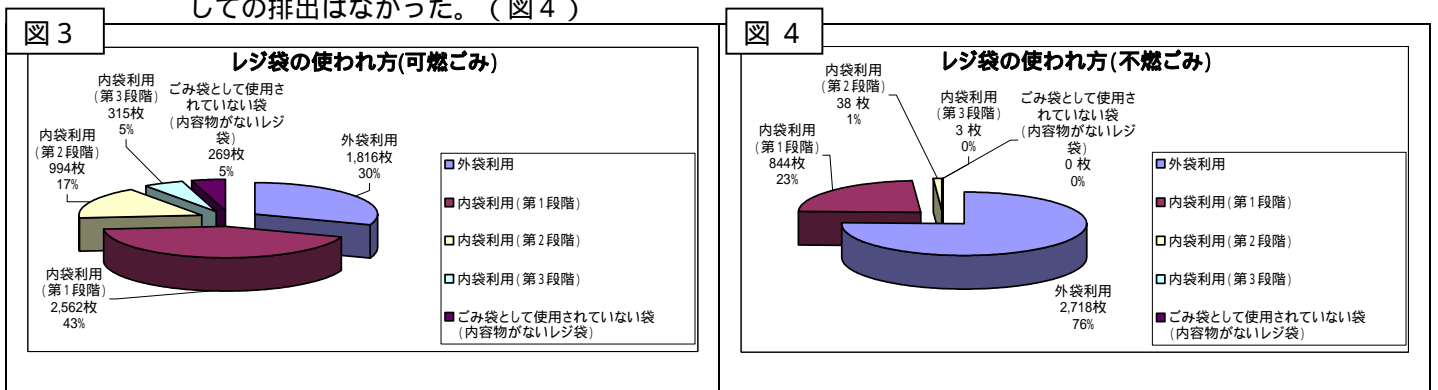
(2) レジ袋の排出状況について

可燃ごみ、不燃ごみともに、ごみ排出時の袋としてレジ袋の利用が全体の8割を超えていた。レジ袋に着目した、レジ袋の使われ方、レジ袋の大きさ・大きさ別の利用方法及びレジ袋の提供元（小売店等）は、次のとおりであった。

レジ袋の使われ方について

可燃ごみの排出時のレジ袋の使われ方は図3のとおりであった。袋の総数は5,956枚で、外袋としての利用が1,816枚で全体の30%、内袋としての利用が第3段階まで含めると3,871枚で全体の65%を占め、ごみとしての排出が269枚で全体の5%であった。（図3）

不燃ごみの排出時のレジ袋の使われ方は図4のとおりであった。袋の総数は3,603枚で、外袋としての利用が2,718枚(76%)、内袋としての利用が第3段階まで含めると885枚(24%)で、ごみとしての排出はなかった。（図4）



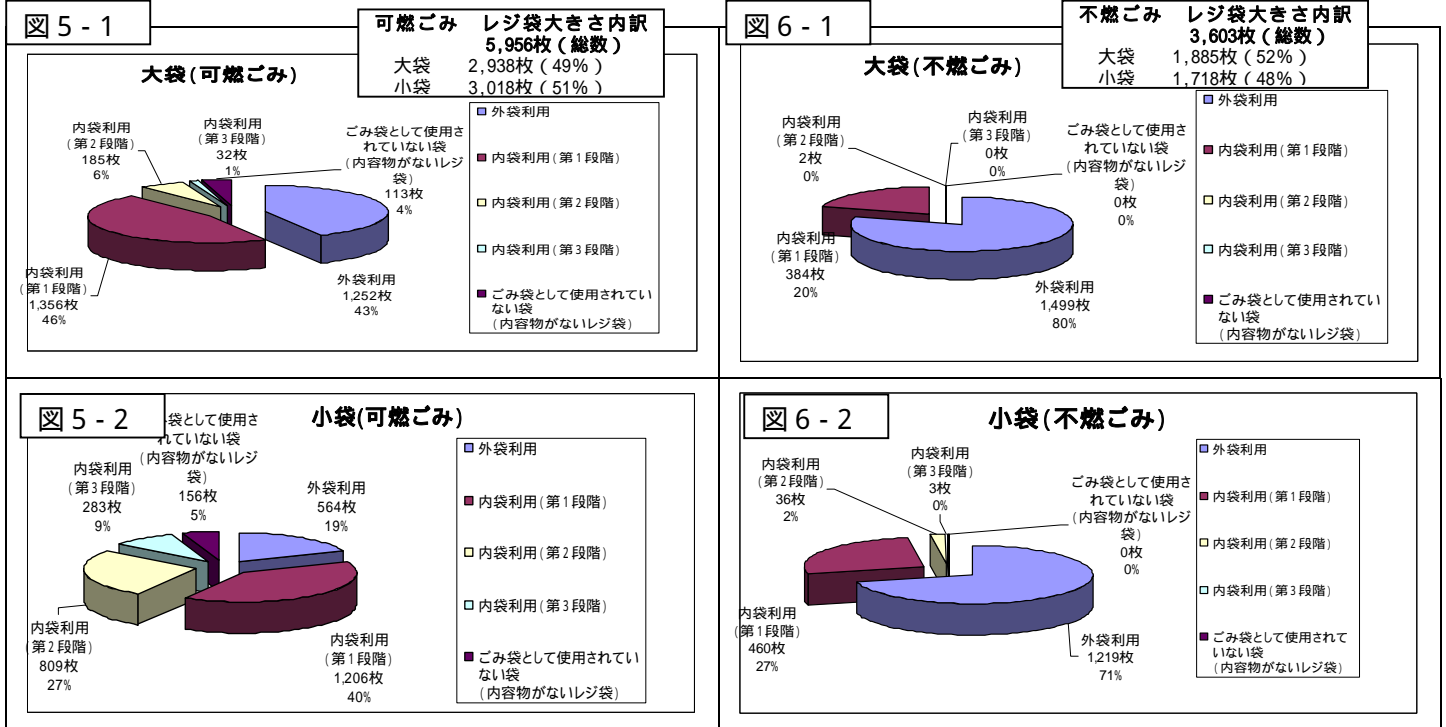
レジ袋の大きさ別の使われ方

ごみ排出時のレジ袋の大袋、小袋の大きさ割合は、可燃ごみ、不燃ごみともに、ほぼ半数であった。

可燃ごみ排出時の大袋の使われ方は、外袋としての利用が1,252枚で全体の43%、内袋としての利用が第3段階まで含めると1,573枚で全体の53%で、ごみとしての排出が113枚で全体の4%であった。一方、小袋の外袋としての利用が564枚で全体の19%、内袋としての利用が第3段階まで含めると2,298枚で全体の76%で、ごみとしての排出が156枚で全体の5%であった。(図5-1、図5-2)

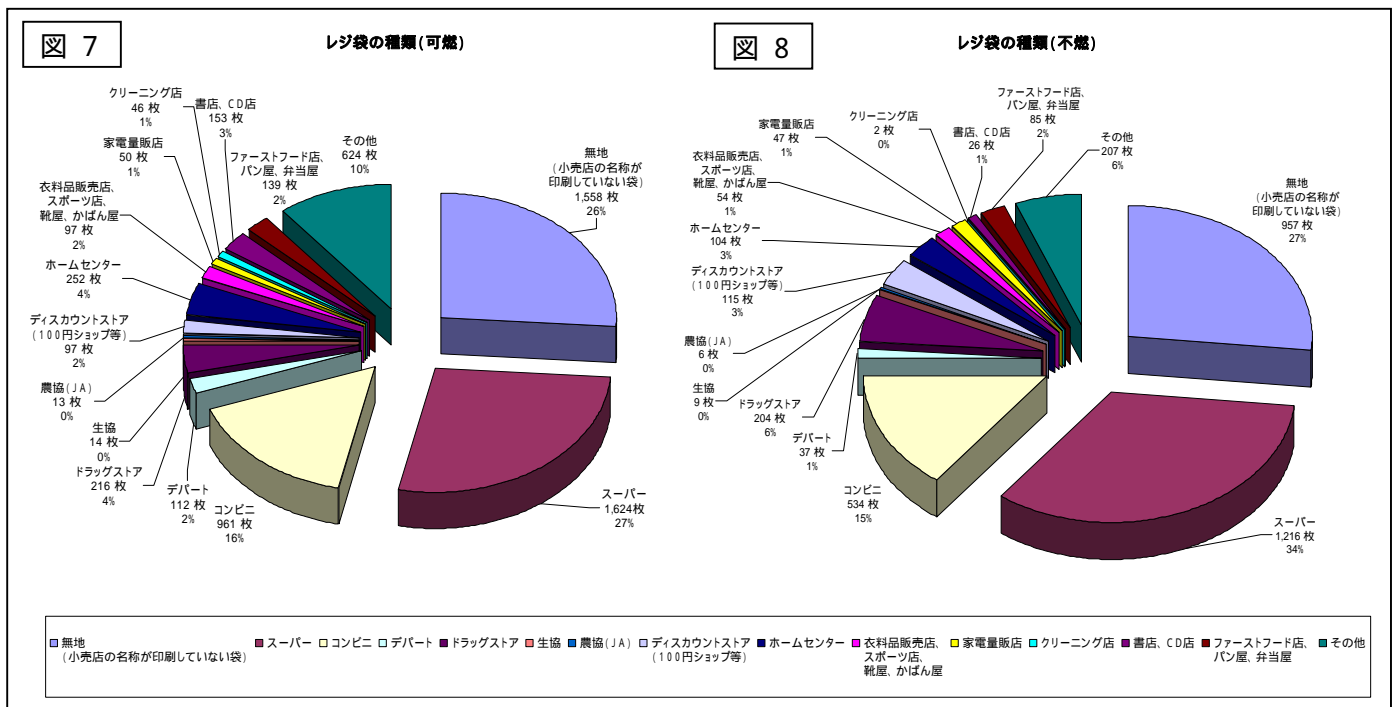
不燃ごみ排出時の大袋の使われ方は、外袋としての利用が1,499枚で全体の80%、内袋としての利用が第2段階まで含めると386枚で全体の20%であった。一方、小袋の外袋としての利用が1,219枚で全体の71%、内袋としての利用が第3段階まで含めると499枚で全体の29%であった。(図6-1、図6-2)

「概ね5リットル(縦42cm×横18cm(横マチ30cm))以下の袋を小袋とした。」



レジ袋の提供元(小売店等)

レジ袋の提供元(小売店等)の状況は、可燃ごみ、不燃ごみともに、スーパー、コンビニが多く、この2業種が半数の割合を占めている。(図7、図8)

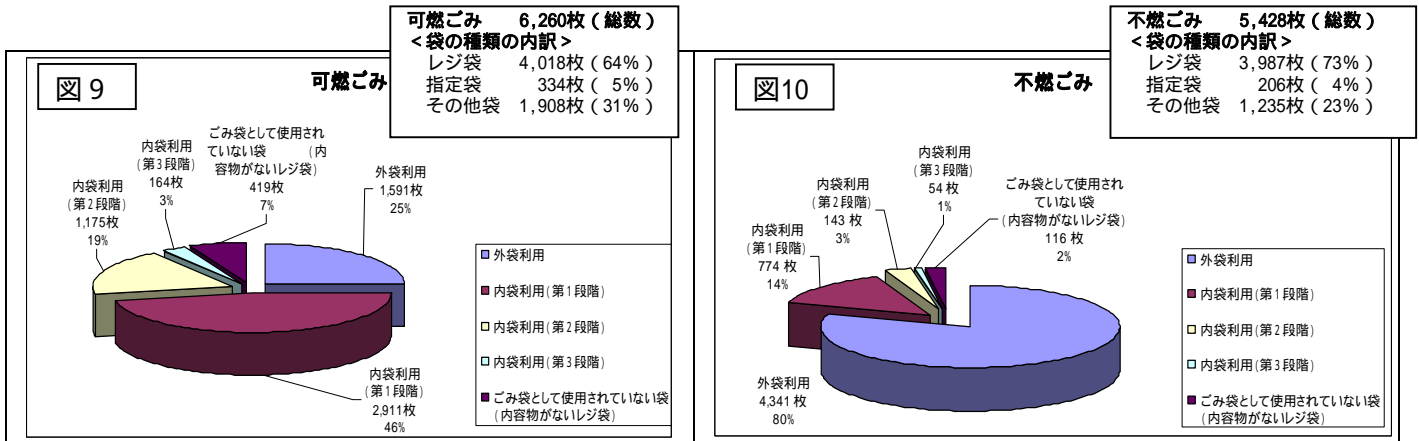


3 調査結果【平成22年2月実施】

(1) ごみ排出時の袋の種類・使われ方について

可燃ごみの排出時の袋の種類・使われ方は図9のとおりであった。袋の総数は6,260枚で、袋の種類としては、レジ袋が4,018枚で全体の64%を占めていた。外袋としての利用が1,591枚で(25%)、内袋としての利用が第3段階まで含めると4,250枚(68%)で、ごみとしての排出が419枚(7%)であった。(図9)

不燃ごみの排出時の袋の種類・使われ方は図10のとおりであった。袋の総数は5,428枚で、袋の種類としては、レジ袋が3,987枚で全体の73%を占めていた。外袋としての利用が4,341枚(80%)、内袋としての利用が第3段階まで含めると971枚(18%)で、ごみとしての排出が116枚(2%)であった。(図10)



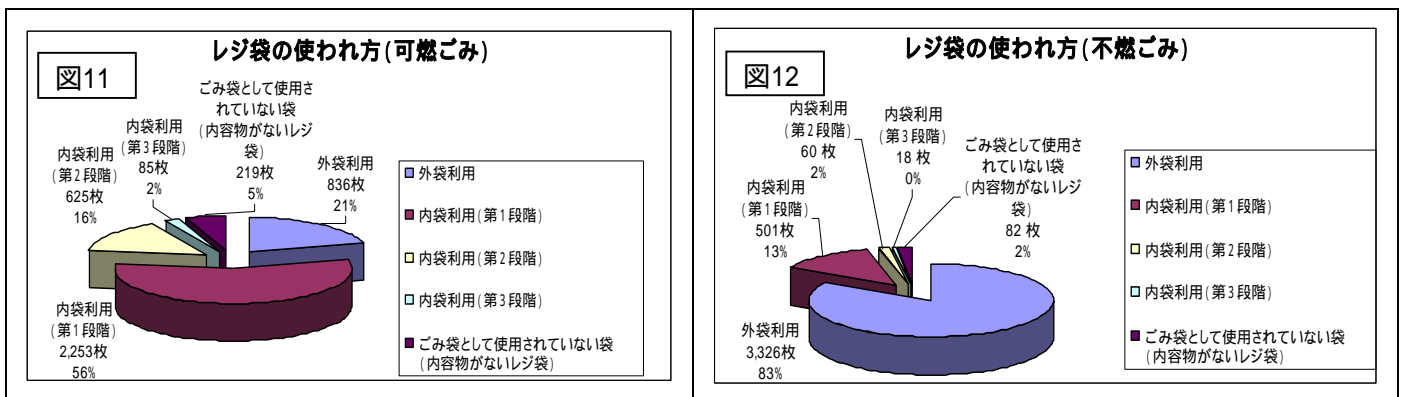
(2) レジ袋の排出状況について

可燃ごみ、不燃ごみともに、ごみ排出時の袋としてレジ袋の利用が全体の6割を超えていた。レジ袋に着目した、レジ袋の使われ方、レジ袋の大きさ・大きさ別の利用方法及びレジ袋の提供元(小売店等)は、次のとおりであった。

レジ袋の使われ方について

可燃ごみの排出時のレジ袋の使われ方は図11のとおりであった。袋の総数は4,018枚で、外袋としての利用が836枚(21%)、内袋としての利用が第3段階まで含めると2,963枚(74%)で、ごみとしての排出が219枚(5%)であった。(図11)

不燃ごみの排出時のレジ袋の使われ方は図12のとおりであった。袋の総数は3,987枚で、外袋としての利用が3,326枚(83%)、内袋としての利用が第3段階まで含めると579枚(15%)で、ごみとしての排出が82枚(2%)であった。(図12)



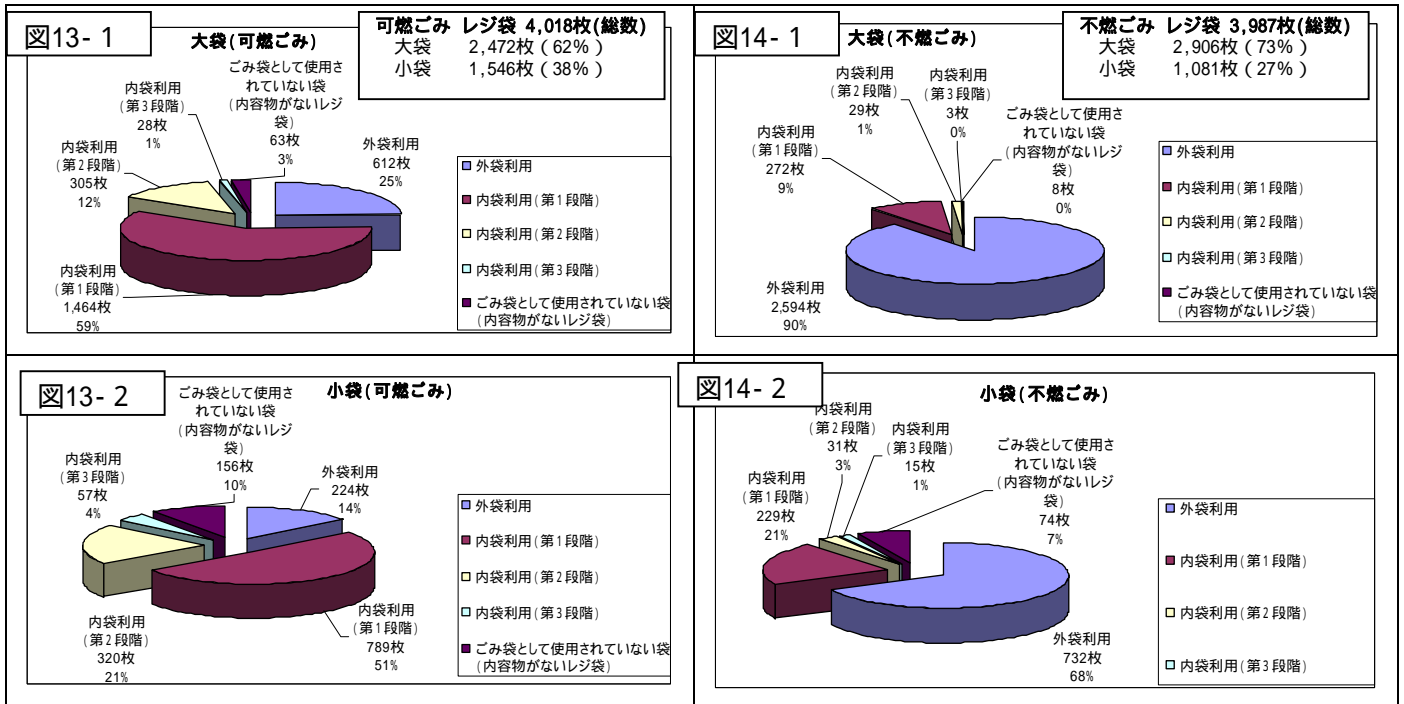
レジ袋の大きさ別の使われ方

ごみ排出時のレジ袋の大袋、小袋の大きさ割合は、可燃ごみ、不燃ごみともに、大袋が多かった。

可燃ごみ排出時の大袋の使われ方は、外袋としての利用が612枚（25%）で、内袋としての利用が第3段階まで含めると1,797枚（72%）で、ごみとしての排出が63枚（3%）であった。一方、小袋の使われ方は、外袋としての利用が224枚（14%）で、内袋としての利用が第3段階まで含めると1,116枚（76%）で、ごみとしての排出が156枚（10%）であった。（図13-1、図13-2）

不燃ごみ排出時の大袋の使われ方は、外袋としての利用が2,594枚（90%）で、内袋としての利用が第3段階まで含めると304枚（10%）でごみとしての排出が8枚（0.2%）であった。一方、小袋の外袋としての利用が732枚（68%）で、内袋としての利用が第3段階まで含めると275枚（25%）でごみとしての排出が74枚（7%）であった。（図14-1、図14-2）

「概ね5リットル（縦42cm×横18cm（横マチ30cm））以下の袋を小袋とした。」



レジ袋の提供元（小売店等）

レジ袋の提供元（小売店等）の状況は、可燃ごみ、不燃ごみともに、スーパー、コンビニが多く、この2業種が半数の割合を占めている。（図15、図16）

